

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	えがおの家（放課後等デイサービス）			
○保護者評価実施期間	令和7年3月1日		～	令和7年3月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	12
○従業者評価実施期間	令和7年3月15日		～	令和7年3月22日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年5月19日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	個別活動と集団活動を組み合わせや異年齢児との交流、地域との交流を取り入れた支援計画を策定している。	実際の活動では、こどもが自分で選択するなどの経験を通して主体性を育てる支援を行っている。また、系列の事業所との交流を積極的に行い、異年齢のこどもと関わる場面を意識的に設定している。	よりよい支援を影響できるように情報交換やミーティングを密に行い、支援の質の維持向上に努める。
2	生活に必要な基本的習慣や技能の習得にも取り組んでいる。	食事、排泄、衣類の着脱、身の回りを清潔にすること等の生活に必要な基本的技能を獲得できるよう、生活の場面の中で、そのこどもの状態に応じて適切な支援をしている。	生活習慣や技能の習得は、家庭と協力して継続的に行わなければならないので、保護者の理解と協力関係を築いて行かなければならない。
3	家族が安心して子育てを行うことができるよう信頼関係を構築し、丁寧な「家族支援」を行っている。	子育ての困りごとや不安について、面談をはじめ電話やSNSも活用して相談にのったり、家族に寄り添いながら必要な助言と援助を行っている。	定期的な面談のほか、いつでも遠慮なく相談できる体制を整えていく。また、全職員が相談のスキルを身に付けるよう努める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	業務の効率化や働き方改革の必要性を感じる。	報酬改定やガイドライン等の改定によりやるべきこと、事務的な業務が増え、こどもとかかわる時間や心の余裕が減ってきている。	さらなる業務のデジタル化や、放課後等デイサービスに特化した業務用ソフトの導入を検討している。
2	保護者との交流や保護者会の参加が低迷している。	コロナ禍以降、保護者との交流や行事への参加が減っている。 保護者会に出席する方がいつも同じメンバーになっている。	参加者が増えるよう協力を呼び掛けたり、参加してみたいくなるような企画について役員と相談していく。 以前実施していた「かがやき集会」を踏まえ、交流の機会を検討する。
3			